

第37回 うつのみやこども賞だより

令和2年度 5回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『ラグリマが聞こえる』

ささぐちともこ／作（汐文社）



令和2年10月4日

うつのみやとしょかん
Utsunomiya city library

～読んだ本の感想より～

- 戦争と原爆でぼろぼろになったギターが生き返るなんてすごいなと思った。被爆ギターでミオンのパパが残したラグリマをぜひ弾いてもらいたい。
- タイトルには、ミオンがこれから奏でる曲の、ラグリマが聞こえるという意味と、戦争にあった人たちの涙が聞こえる、そういう意味もあると思う。
- 最後のミオンの決意が一番心に残って、自分ではできないとおもいました。
- なぞをときながら主人公の父や祖父のこと、戦争のことがわかっていく。父の死から立ち直っていくきっかけになっていったところが好き。被爆ギターを聞いてみたい。
- とても心あたたまってお話でした。

『天邪鬼な皇子と唐の黒猫』 渡辺 仙州／作（ポプラ社）

- 猫がしゃべるといって面白いが、本当にいたらいいなとおもってしまう。歴史も学べて一石二鳥、左京や右京など猫たちの関係もおもしろい。
- クロが人やのら猫と仲良くなる場面も良かった。クロの定省へのつこみが面白くて笑ってしまった。
- 猫が見ているところで話が進んでいくところがおもしろい。
- 定省とクロがときどきギクシャクしながら暮らすところがすごくかわいい。
- 右京と左京のバトルシーン、クロが定省のために遠い島まで菅原道真に会いに行くシーンが好きです。

『サンドイッチクラブ』 長江 優子／作（岩波書店）

- 表紙や題名で「サンドイッチに関することなんだろうな」と思っていたが、予想外の展開に読んでいてワクワクしました。P195～202で珠子ちゃんとヒカルが言い争っているシーンがあるのですが、どちらの気持ちもわかって、読んでいて少し苦しくなりました。
- ヒカルと珠子がつくるペンギンの砂像がどんどんうまくなっていき様子が変わった。
- あまりなじみのないサンドアートが題材で興味深かった。
- 物語としてとてもおもしろい上に、戦争のおそろしさや、人間のあやまちなどを学ぶことができるともよいと思いました。

『はじまりの夏』 吉田 道子／作（あかね書房）

- 空ちゃんは最初はにげたりかくれたりしていたけれど、どんどんぼぶらやお母さんに心を開いていくのが分かった。パパをなくしたぼぶらの家族と、ママをなくした大地の家族がいっしょに住むことによって、みんなが幸せになっていくと思う。
- たしかに大切な人はうしないたくないです。
- 私はぼぶらの立場がすごく重要だと思った。空の反対する気持ちは分かるけど、母さんの「相ぼうがほしい」という願いも分かるからすごく難しい立場だと思った。
- 空ちゃんが心を開いてくれて本当によかった。ラストスッキリしました。